

21世紀を豊かに生きぬく児童の育成をめざして  
豊かな体験活動を通して

岡山県倉敷市立第四福田小学校

取組のねらいと内容

(1) ねらい

豊かな体験活動を通して子どもたちの心をはぐくみ、より主体的な児童を育てる。

(2) 活動内容

- ・むかし体験（吉備路ウォークラリー・炭焼き・赤米を炊く・課題別の体験）
- ・山の学習（自然体験）
- ・修学旅行（奈良公園ウォークラリー）

教育課程上の位置付け

総合的な学習の時間に位置付け、年間7日程度行った。

活動の概要（6年生総合的な学習の時間の実践）

(1) 指導の重点

- ・人や物に積極的にかかわり、自分自身を見つめ自他のよさに気付くことができるようにする。
- ・体験活動を通して課題を見つけ、自らの力で解決しようとする態度を育てる。
- ・課題を解決する中で、身の回りの社会問題に気付くことができるようにする。

(2) 年間計画

- ・4月～7月「むかしを体験しよう」(40時間)
- ・9月～10月「修学旅行のガイドブックをつくろう」(15時間)
- ・11月～1月「HIVについて考えよう」(15時間)
- ・1月～3月「未来のぼく・わたしを求めて」(30時間)
- ＊年間「英語指導」(10時間)

(3) 単元「むかしを体験しよう」

ア ねらい

むかし体験を通して、歴史への関心を深め、自らのテーマを追究していく態度を養う。

イ 単元の構想

第1次 つかむ「自分のテーマをきめよう」

- ・吉備路ウォークラリー
- ・赤米を炊いてみよう
- ・炭焼き体験をしよう

第2次 追究する「自分のテーマを追究しよう」

- ・むかし体験をしよう

第3次 生かす「発表会をしよう」

ウ 課題をつかむ活動について

**イメージマップをかく**

導入で右のようなイメージマップを一人一人が書いた。社会科の学習や衣・食・住からイメージした言葉が多かった。この子どもたちのイ



メージをもとに「吉備路ウォークラリー」「赤米を炊いてみよう」「炭焼き体験をしよう」という3つの体験活動を計画した。

#### 吉備路ウォークラリー

グループに分かれて、造山古墳，国分寺，資料館，古墳公園などを見学した。古墳の中に入り，石棺を見たり，竪穴住居の模型を見たりするなど実際に遺跡や模型に触れることによってむかしの暮らしについて興味を深めることができた。



#### 赤米をたいてみよう



学区内のお米屋さんをお願いして赤米を取り寄せていただき，6年生全員で炊いてみた。炊き上がりは赤飯のようで，子どもたちはとても満足して食べていた。



#### 炭焼き体験をしよう

「とのやま山荘」というところで体験を行った。木を割るところから，窯まで木を運び，窯に木を入れるところまでを体験した。

残念ながら時間の都合で後日できた炭を取り出すという活動はできなかったが，炭がどのような過程で作られるのかについては理解することができたと思う。

以上3つの体験活動後，導入時に書いたイメージマップにさらに広がったイメージを書き加えていった。このイメージマップを参考に自分が追究していきたいテーマを決めた。同じようなテーマをもつ子どもたちが集まり大きく11のグループができた。

はにわ・石器・むかしの食事・火起こし・古墳・土器・たて穴住居・まが玉・歴史・むかしの服・大仏

#### エ 課題を追究する活動について

最初の時間にグループのみんなで話し合い計画書を作った。これに沿って，まず図書館の本やインターネットを利用して情報を集めた。次に集めた情報を整理しながら模造紙などにまとめていった。各グループがまとめ終わった段階でむかし体験を行った。

ゲストティーチャーやボランティアティーチャー



の支援を受けながら子どもたちは目を輝かせて取り組むことができた。土器・はにわ作りでは陶芸の講座を受け持たれている先生が、また火起こしのグループには倉敷市少年自然の家の先生が専門的に支援してくださり、子どもたちにとってとてもいい経験となった。またたくさんの保護者の方が参加してくださり、学校と家庭が共に子どもを育てるという意識の高まりを感じた。



#### ウ 生かす活動について

各グループが活動した場所で発表会を行った。発表後子どもたちは、「友達の取り組んだことを見て」と「自分たちが取り組んだことをふり返って」という2つの視点で感想を書いた。  
児童の感想

どの作品もすごかったけど、私がすごいと思ったのは服作りのグループです。むかしの服についてよく調べたから、あんなにいい作品ができたんだろうなと思いました。むかしの人が着ていた服についてよくわかりました。苦労して作ったんだろうなと思いました。

本物の約100分の1の大きさの古墳をつくりました。土を運んだり固めたりするのがとてもたいへんでした。完成したときは「やった。」という感じでした。私たちはスコップを使ったけど、むかしの人は何を使っていたのか、また調べてみたいと思いました。

縄を結んだり、わらをたばねたりするのはとてもたいへんでした。本当はもっと大きいので作業はたいへんだったろうなと思いました。苦労してできたたて穴住居の中で給食を食べました。わらが入りそうだし、暗いし、食べにくかったけどとても楽しかったです。こわさずにずっと四福小においてほしいと思いました。

#### 活動の評価方法

##### (1) 評価の観点と評価規準

主体的創造的態度	課題追究能力	気づき・生き方
・自分で決めた課題を主体的創造的に追究しようとしている。	・目的にあった方法で、見通しをもって調べることができる。 ・人や物と積極的にかわり、適切な方法を選んで分かりやすく表現することができる。	・追究の過程を通して気づいたことや得たものを、今後の生活や学習に生かし、実践することができる。

上記の評価規準に基づいて、各単元の具体的な評価規準を作成した。

( 2 ) 評価の仕方について

児童自身の自己評価・児童間の相互評価・教師評価を総合して評価した。

学校支援委員会の組織・運営

( 1 ) 学校支援委員会の組織

民生児童委員，人権擁護委員
学区老人会会長
学区愛育委員会会長
子ども会連合会会長，県青少年相談委員
児童クラブ運営委員会委員長，県青少年相談委員
少年警察協助力水島班班長，教育ボランティアグループ若鮎会代表 水島警察署管内少年を守る母の会推進委員，民生児童委員
第四福田小学校 P T A 会長
第四福田小学校 P T A 副会長

( 2 ) 学校支援委員会の運営

- |              |                                      |
|--------------|--------------------------------------|
| 第 1 回学校支援委員会 | 学校経営方針の説明<br>豊かな体験活動推進事業について<br>情報交換 |
| 第 2 回学校支援委員会 | 岡山教育の日学校開放参加<br>情報交換                 |
| 第 3 回学校支援委員会 | 校内研究会参加<br>情報交換                      |

推進地域としての取組

各推進校における豊かな体験活動の円滑な展開に資するため，推進地域協議会を開催し，協議，情報交換を行っている。各推進校の取組の紹介，ねらいや重点，実施に当たった課題，成果の取りまとめ等，推進地域の実態に即した話し合いが行われている。

活動の成果

- ・ 直接体験することで，子どもたちは感動や驚きを覚え，そこから自分自身の課題を見つけることができた。
- ・ 課題を追究する過程で，さまざまな体験活動を取り入れることによって，子どもたちは生き生きと主体的に学習を進めることができた。
- ・ ゲストティーチャーやボランティアティーチャーなど地域の方々の支援を受けることで，学校と地域の結びつきが深くなった。

今後の課題

- ・ 体験活動を有意義なものとするために，教育課程上の位置付けや取り入れ方などさらに研究をすすめていく必要がある。
- ・ 学校から積極的に地域に向けて発信することによって，地域との連携を深め，新しい体験活動の開発や人材確保を行う。
- ・ 学校と支援委員会，学校間の情報交換など推進地域の協議会を活性化させることによって，さらに体験活動を推進していく必要がある。